

2015年度（平成27年度）幼稚園評価自己評価表

最終更新日 2015年（平成27年）4月30日

園番13 福山市立高島幼稚園

1 幼稚園教育目標

豊かな心を持ち、生き生きと活動できる子

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

- ・笑顔とやる気に満ちあふれる活気のある幼稚園
- ・子どもたちが互いに励まし、高め合える幼稚園
- ・地域に関き 連携を密にし、信頼される幼稚園
- ・子どものよさを認め、伸ばすことに努める教師
- ・研修に励み、互いに協働し、共に伸び合う教師
- ・保護者や地域社会の願いと信頼に応える教師

3 目指す幼児像

- ・友だちとかかわりながらよく遊ぶ子
- ・よく考える子
- ・自分の思いが表現できる子

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

本園は、山や海、緑豊かな公園や畑など自然に恵まれた環境にある。地域の方々は、幼稚園教育の大切さを理解し、ゲストティーチャーやボランティアなどさまざまな形で支援、協力してくださっている。園の近くの道路が整備され、交通量が増えている。また、子どもの数の減少とともに、保育所に預ける家庭も増え、子どもたちは、戸外で自然や友だちと触れ合って遊ぶ直接体験が少なくなっている。

園児は、4歳児5名、5歳児10名、計15名の子どもたちである。5歳児は、年長組となった喜びをもって生活している姿が見られる。4歳児は、新しい環境に不安は見られるが、教師のかかわりや5歳児と一緒に遊んでもらったりするなかで園生活にも慣れてきている。

8割の子どもの母親は家庭にいる。53%が第一子か、一人子であり、保護者のなかには、子育てに不安をもっていたり、かかわり方がわからず悩んでいる人、自分流のかかわり方を変えることが難しく、子どもとのコミュニケーションがうまくいっていない人などがいる。そのため、子どもも自分に自信がもてず、受身になったり、消極的になったりしがちである。47%の子どもは、兄弟がいるため、保護者は、安心して子育てをされているが、子どもの成長に合わせた働きかけが弱いように感じる。

また、少人数園のため、子ども同士の刺激が少なく、短い言葉で表す子どもが多いので、自分の思いを伝えたり、相手の思いを受けとめたりする機会が少なくなりがちである。療育施設などに通っている子どももあり、一人一人の子どもの興味や育ちが異なり、子ども間のコミュニケーションが難しい場面がみられ、受けとめてもらった満足感や共感しあう喜びが味わいにくいように思われる。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
○身近な自然に親しみ、感じたり考えたりしたことを、進んで表現しようとする意欲を育てる。	少人数の集団のなかで教師も保護者も、子どもに過干渉になり、子どもが主体的に遊ぶ場面が少なくなっている。そこで、高島の地域の特徴である豊かな自然とかかわるなかで、子どもが心を開放したり、自己発揮したり、繰り返し遊びこむことで、感じたり、「なぜ?」「どうして?」と考えたりする態度を育てたい。また、友だちと一緒にさまざまな感動体験や共通体験を積み重ねるなかで、感じたり、表現したりする楽しさや豊かな心を育てたい。

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価項目	評価	評価結果
				指標		○=反省や課題 ◎改善のための方策
生きる力の基礎	・自然に親しみ、感じたことを表現する楽しさを味わう。	・感じたり、考えたりしたことを自分なりに表現して楽しむ。	・心動かす出来事との出会いから受けた感動を共有し、表現する楽しさを味わえるようにしていく。	・当該年齢の望む姿の幼児 (60%)		
教師の役割	・子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育内容を工夫する。	・幼児一人一人の発達の特性に応じた遊びを工夫する。	・研究保育を2回以上行い、幼児一人一人の発達の特性に応じた遊びの創造を行う。	・研究保育でのねらいを達成した幼児 (60%)		
	・子どもが身近な環境への好奇心や探究心をもち、意欲的に活動できる環境づくりをする。	・身近な自然に自分からかわり、発見を楽しんだり、考えたりする。	・見通しをもって、飼育栽培、散歩などを行い、環境の変化や動植物の様子に子ども自らが気付くようにしていく。	・当該年齢の望む姿の幼児 (80%)		
信頼される幼稚園	・保護者や地域との連携を深め、信頼される幼稚園づくりをする。	・保護者や地域の人に栽培活動に参加していただき、幼稚園の目標や取り組みについて理解を深める。	・保護者、地域の人と一緒に栽培活動や調理活動などを行う。	・幼稚園の目標や教育内容、園児の育ちへの肯定的評価 (80%)		